

## 研究協力のお願ひ

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

<p>大腸 T1 癌の組織型評価方法に関する後方視的研究</p>
<p><b>1. 研究の対象</b> 2001 年 4 月から 2020 年 5 月に当施設にて早期大腸癌の治療を受けられた方を対象にしております。</p>
<p><b>2. 研究目的・方法</b> 大腸癌治療ガイドライン 2019 年では、内視鏡的切除された早期大腸癌の切除標本の組織学的検索で、(1) T1b (癌の深さ)、(2) 脈管侵襲陽性 (癌細胞の血管への浸潤の有無)、(3) 低分化腺癌、印環細胞癌、粘液癌 (癌細胞の悪性度)、(4) 浸潤先進部の簇出 BD2/3 (癌の浸潤のしかた) はリンパ節転移のリスク因子であり、いずれか一因子でも認めれば追加治療として外科手術を考慮すると規定されています。このうち (3) の癌の組織型 (細胞の悪性度) の評価方法に関しては、主組織型 (癌面積の 50%以上を占める成分) で評価するか最低分化度 (最も悪い成分) で評価するかは記載されていません。本研究では両者でどちらがより有用なリンパ節転移リスクの指標になるか調べるのが目的です。これにより追加で外科手術が必要な患者さんを現状のガイドラインよりも高精度に選別できる可能性があります。</p> <p><b>研究期間</b> 昭和大学横浜市北部病院臨床試験審査委員会承認後～2022 年 12 月 31 日</p>
<p><b>3. 研究に用いる試料・情報の種類</b> 提供していただく資料は、切除した大腸病変の内視鏡所見をはじめとする診療情報です。具体的には、年齢、性別、治療内容、内視鏡所見、病理組織診断結果などを調査項目とさせていただきます。個人のプライバシーの情報を保護することは、法律で決められた医師の義務です。他人に個人の情報が漏れないように、取り扱いを厳重に行っています。</p>
<p><b>4. お問い合わせ先</b> 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属：昭和大学横浜市北部病院 消化器センター 職名：助教 住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000 (代表)、内線：7565 (消化器センター) 研究責任者：一政 克朗</p>